

留学先大学： 上海交通大学
 留学先での所属学部・研究科： 国際公共事務学院
 留学先での在籍身分： 交換生
 留学期間： 2014 年 9 月～ 2015 年 29 月
 神戸大学での所属学部・研究科： 法学部
 学年（出発時）： 5 年
 本報告書記入日： 2015 年 1 月 29 日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	China's Intercultural Communication, 3	LU Yungpin	3 . 5	不明	3 0	SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目の1つ。英語による授業。テストは無い。レポートの提出が多い。またグループによる課題がある。ただ、内容はとても簡単。
2	Energy, Climate Change and Sustainable Development in China	ZHANG Junhua	3 . 5	不明	2 0	SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目の1つ。英語による授業。毎回事前に割り当てられた論文を読んでから授業に出席することが求められる。課題は、学期にひとり一回のプレゼンとファイナルペーパーの提出。テストはない。
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

・上記2つの授業共に、SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目であるため現地学生の履修は少ない（少ないがいる）。むしろ、他国からの交換留学生や、IMPに所属する留学生（院生）が殆ど。
 ・クラスは教授が一人一人を認識するには十分なくらい小さい。
 ・成績評価については、課題さえ（形式的であれ）こなしていれば、単位は貰えるのではと感じる。
 ・教授は中国人であり第二外国語として英語を使い授業を展開する。
 ・神戸大学の教授には体系だった知識を教えようという意識を感じたが、こちらの教授にはそのような意識や熱意がない。
 ・またアメリカに比べて、学生と教授の関係が「フェア」でない。教授は偉そうにしているが、授業は分りにくいし、課題や授業時間の変更など事務連絡も手抜き。
 ・学生も英語を母語としない留学生が多いが、留学生の英語力はとても高い！！（彼らの英語力は教授以上であると感じる。）
 ※私は中国語で開講される授業を履修しなかったが、もちろん中国語で開講される授業の方が圧倒的に多い。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃： 5万円
 - ・住居費：（月額） ×（留学月数） ヶ月 = 16万円
 - ・食費：（月額） 1万5千円 ×（留学月数） 4.5 ヶ月 = 7万2千円
 - ・保険料： 8万円
 - ・その他： 15万円
- 合計： 50万円 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

■上海交通大学での学習成果

大学付属の語学学校にて週8時間の中国語の授業を1つ、また、国際公共事務学院の院生対象の講義も履修しました。中国語の授業は初心者向けのものでしたが、内容は日常会話中心だったため習ったフレーズをすぐに現地学生との会話で使う事ができ、充実感を感じながら学ぶことができました。

所属した学院の授業では「中国政府の環境政策」および「中国における多文化理解」という2つの講義を履修しました。それらの授業では、現地学生やヨーロッパを中心とする多くの国からの留学生と共に学びました。特に「中国政府の環境政策」の授業では、毎週大量の英語の論文を予習してから授業に臨みました。担当教授はCOP交渉に中国政府の一員として関わった経歴をもち、地球環境問題における中国政府の立場の背景には、中国国外からは見えない中国国内特有の事情も複雑に絡み合っていることを学びました。

■中国留学を決めた理由

中国留学以前に安全保障学を専攻していた私は、自分の学問分野における中国への視点（「脅威」としての中国）をもって中国人を判断する傾向がありました。私は以前米国留学した際にも中国人ルームメイトをもちましたが、彼女が中国人であることを理由にして最後まで彼女を信用出来ませんでした。米国留学における心残りは唯一この点だけで、「中国や中国人への苦手意識を克服したい」という理由で中国留学を決めました。結果的に、中国に住んで初めて中国という国や中国人における多様性に気づき、彼らとの交流を通じて中国が心から愛おしい国に変わりました。

■今回の留学で達成したこと

- ・複雑な近代史にまつわる両国間の感情を超えたところで、中国人と信頼関係を築けたこと。
たとえば、南京出身の中国人の友達に、南京大屠殺記念館や総督府など旧日本軍と関わりの深い場所を多く案内してもらいました。
- ・中国語の習得。（まだまだ流暢とは言えませんが・・・）
- ・そしてなにより、素敵な中国の友人と知り合えたこと。

帰国日には朝早くから私1人のために10人程の友達が船乗り場（船で帰国しました。）まで付き添ってくれ、荷物検査ギリギリまで来て、私の姿が見えなくなるまで見送ってくれました。別れの際には、「君の将来は幸せしかない!」「今後も太陽のような心で生活するように!」と明るく送り出すのが中国流のようで、4月から始まる社会人生活へ私の背中を押してくれました。また帰国後に中国に帰りたい寂しさが募ったときには、「貴方との思い出はみんな生涯忘れないよ。友情に距離は関係ないし、困ったときはいつでも相談にのるから。」と励ましてくれ感動しました。

■今後の抱負

今後も中国語の勉強を続け、これまで中国人と英語で話していた部分を中国語で話せるようになりたいです。そして、中国の友達に私の近況を中国語で知らせ、彼らの近況を中国語で聞き、彼らとずっと繋がっていられるようにしたいです。

また、中国語という語学のみならず、中国の歴史や習字や漢詩などの文化も学んでいきたいと思えます。

また中国語を勉強する過程で「世界は英語だけではない」と気付いたので、中国語の他にも外国語を勉強し、仕事で出会う現地の人と現地語でよりスムーズなコミュニケーションがとれるようになりたいです。

■今後中国留学を考えている方へ

留学生課の方から中国留学を希望する学生がとても少ない、と聞きました。複雑な近代史を共有する日中において互いに複雑な感情を抱き合う国民が多いことは紛れもない事実ですが、だからこそ私は是非多くの後輩の皆さんに中国留学を経験してほしいと思います。中国には、日本からは見えない中国の姿があります。私も留学をへて初めて、中国国民を画一的に捉えるこれまでの自分の至らなさに気づき、中国人ひとりひとりの個性や多様な人生の存在を知りました。やはり日本人は中国人の嫌目感情を恐れているかと思いますが、心配することはありません。実際のところ私たち日本人が中国語でいう「善良:shanliang」に自然体で彼らと接する限り、彼らは（他の外国人に対してもそうであるように）もちろん日本人も温かい心で出迎えてくれます。そしてその彼らの温かさは、日本人の比などではありません。この彼らの人情味は「日本のおもてなしの心」と大きく異なります。そのため彼らの本当の人情味を理解するには、短期の中国旅行では絶対に足りないと思います。留学をして中国で彼らと暮らしを共にするなかで、初めて日本人が理解できる中国の姿であると思います。中国は日本に似ているようで全く異なり、また異なるようで実は似ている、知れば知るほど興味が尽きないとても面白い国です。ぜひ語学要件をクリアする少しの努力と、申請書を出す少しの勇気で、中国留学を実現させてください!!!!

→以上、今回の中国留学は紛れもなく自分にとって生涯の財産と言えます。そのような留学をする機会を頂けたことに感謝しています。